別記様式（第２条関係）

# 会　議　結　果　報　告　書

令和７年５月１２日

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 志木市総合振興計画審議会委嘱式及び<br>第１回志木市総合振興計画審議会 |
| 開 催 日 時 | 令和７年３月２７日（木）　１０時００分～１２時００分 |
| 開 催 場 所 | 市役所３階　大会議室３-３ |
| 出席者職氏名 | ［委員］<br>吉澤　富美夫委員、岩澤　千惠子委員、田中　滿男委員、<br>竹前　榮二委員、関口　清久委員、髙橋　大輝委員、<br>岡田　明彦委員、星野　敦子委員、正能　武委員、<br>中村　勝義委員、碇　俊美委員、大貫　結子委員、<br>大村　相基委員、小笠原　順子委員、木下　武三委員、<br>久保　大地委員、白川　美津江委員、那須　博志委員、<br>抜井　貴之委員、松澤　真衣委員、松波　雪枝委員<br>［市長］<br>香川　武文市長<br>（計２２人） |
| 欠席者職氏名 | 今村　弘志委員<br>（計　１人） |
| 説明員職氏名 | 政策推進課　松田課長、柴谷主査、矢野主任<br>ランドブレイン株式会社　菅原、稲葉、三溝<br>（計　６人） |
| 議　　題 | １　開会<br>２　委嘱状交付<br>３　市長あいさつ<br>４　委員、事務局職員紹介<br>５　会長及び副会長の選任について |

| | |
|---|---|
| | ６　報告事項<br>(1) 将来ビジョンについて<br>(2) 市民意識調査概要について<br>(3) 市民ワークショップ結果概要について<br>(4) 志木市のまちづくりに関する基礎調査概要について<br>(5) 今後のスケジュールについて<br>７　その他<br>８　閉会 |
| 結　　果 | 議題２については、香川市長より各委員へ委嘱状を交付した。<br>議題６（１）～（５）の報告事項について、事務局より説明し、質疑応答を行った。<br>（傍聴者０人） |
| 事務局職員氏名 | 松永市長公室長、松田政策推進課長、柴谷政策推進課主査、<br>矢野政策推進課主任 |

会議内容の記録（会議経過、結論等）

１　開会

２　委嘱状交付

３　市長あいさつ

４　委員、事務局職員紹介

５　会長及び副会長の選任について

６　報告事項

・報告事項の説明に入る前に、傍聴者の有無について確認を行った。

→傍聴希望者なし。

・矢野政策推進課主任及び総合振興計画策定支援業務を委託しているランドブレイン株式会社菅原氏、稲葉氏、三溝氏から(1)～(5)について説明し、内容について質疑応答を行った。

(1) 将来ビジョンについて

(2) 市民意識調査概要について

(3) 市民ワークショップ結果概要について

(4) 志木市のまちづくりに関する基礎調査概要について

(5) 今後のスケジュールについて

(委員)

市民意識調査の結果である定住意向の７２％という値は高いのか。これから将来ビジョンを作るにあたって前提となることなので伺いたい。

(説明員)

今後ずっと住み続けたいと思うかという質問に対して、「できれば引っ越したい」と「ぜひ引っ越したい」を合わせた値が９％であることと、定住意向が７割を超えていることを考えると、高い部類に入ると考えている。

(委員)

市民意識調査の回収率が３１％については、他自治体と比べて高いのか。回答者の年齢層を見ると、これからの志木市を担っていく３０～４０代が少なく、６０～７０代の高齢者が多い。実態を反映していると言えるのか。アンケートの資料として有効なのか。

(説明員)

回収率３１％という値だけを見ると低いように見えるが、全人口に対する回収数の割合は、統計学上の信頼度９５％であり、回答の信頼度を揺るがすものではない。年齢の偏りについては、若い方の意見をより多く拾うために、若い方の配布数を増やし、高齢者は少なくする操作を行う自治体もある。しかし、志木市では、高齢者の方も含めて誰もが住み続けられる、暮らしやすいということに関して意見を集めたいということから、そうした操作は行わなかった。なお、若い方の意見は、子育て世帯向けアンケートを個別で実施している。

(会長)

回収率は、統計的には有効性が保たれており、子育て世帯に対してはアンケートを別途に実施し、４２．６％と非常に高い回答率を得ていると思う。

(委員)

子育て世帯向けアンケートの調査対象は市内小学校６年生までのお子さんがいる１，５００世帯ということだが、回答結果には社会人や中学生以上のお子さんを持つ世帯が含まれており、回答者の年齢構成を見ると、社会人のお子さんを持つ親等で想定できる５０代の回答者は圧倒的に少ないのは、なぜか。

(説明員)

小学校６年生までのお子さんを持つ世帯を抽出しているが、その中には中学生以上の兄姉がいる世帯もいる。小学生以下のお子さんを持つ世帯という条件であるため、４０代までの対象者が多くなり、５０代以上の対象者は少ないことから、回答数も少ないものである。

（委員）

３１％の回答率ということは、７０％近くの方からお答えいただけなかったということになる。市政に参加している方は理解のある方が多いという印象を持っているが、お答えいただけなかった方の意見をどのように把握し、推測するのかも大事ではないか。

（説明員）

意識調査の回答結果では、自由記述欄も設定したところであり、現在の志木市のイメージやキャッチフレーズ、キーワードについては、回答が多い順に、１位「住みやすい、便利」、２位「かっぱ、カパル」である一方で、３位に「特徴がない、普通、地味、中途半端」がランクインしている。プラスとマイナスの意見をいただいていると考える。

（委員）

現行計画はサブタイトルに「ずっと住み続けたい」「住んでみたい」とあるが、市民目線だけでなく、いずれ志木市に住みたいという方の考え方も入っていると思う。他市の方が志木市をどう思っているのかが分かる資料はあるか。アンケートの対象は志木市全域であり、「ずっと住み続けたい」の視点だけを見ているように思う。

（説明員）

子育て世帯向けアンケートでは、市外から志木市に移り住んだ方に対し、なぜ志木市を選んだかを尋ねる問を設けている。また、一般市民向けのアンケートでも志木市に住み続けたくない理由を尋ねており、それが他市と比べて志木市の良いところ、足りないところを反映していると言える。

（委員）

志木市のまちづくりに関する基礎調査について、空き家率が全国的に増加傾向とある一方で、志木市が５．２％まで減らしている理由は何か施策等があるためか。

（説明員）

環境推進課が空き家対策に取り組んでおり、市内全ての空き家を調査している。現地に赴き、訪問や通知等で地道にケアしており、このような取組があって、空き家が減ってきているのではないか。

（会長）

市民ワークショップに参加された方が１０９名、全部で５回とある。これは延べ数だと思うが、繰り返し参加されている方もいると思うので、実数を教えてほしい。もう一点、今回のワークショップで採り入れたグラフィックレコーディングという手法は、ビジュアルで見やすく分かりやすい一方で、レコーディングを

担当した人が意見を集約していて、情報に偏りが生じる可能性はないのか。グラフィックレコーディングを採り入れた理由について補足いただきたい。

（説明員）

ワークショップ参加の市民の実人数は５０名である。グラフィックレコーディングを採り入れた意図としては、一般的にワークショップは最後にまとめを発表するスタイルが多いが、それでは参加者だけでの意見共有で終わってしまうため、参加者以外の方にもワークショップの内容を分かりやすく共有できるようにした。今回グラフィックレコーディングで取りまとめたものは、開催後に市役所４階の展望ロビーに掲示した。レコーディングは作成者の意図が恣意的に入らないよう、最後に参加者に発表いただいた各分野の目指したい方向性等のみをまとめてもらった。

（委員）

現行計画の策定経緯として、審議会が６回、最終的な答申が１１月とある。今回のスケジュールでは８月に答申となるが、期間が短いのではないか。

（説明員）

前回と比べるとスケジュールが詰まっているが、前回はまち・ひと・しごと地方創生総合戦略について、途中から取り扱うこととなり、議論が長引いている。今回は当初より総合振興計画と一緒に計画的に議論していく。

（会長）

審議会の答申後にパブリックコメントがあり、総合振興計画案の修正もあると思うが、どのように進められるのか。委員に修正内容の連絡はあるのか。

（説明員）

パブリックコメントでいただいた意見によっては内容を変更して最終案とすることはある。事後報告となってしまうが、最終的にでき上がった計画書を委員に報告として送付させていただく。

（会長）

短いスケジュールで不安もあるが、志木市らしくパワフルに、短期集中で委員の力を集約して進めていきたい。

7　その他

8　閉会

備考　会議内容の記録には、発言者の立場を明記するとともに、発言の趣旨が容易に理解できるよう簡潔明瞭に記載すること。